

富士川游

（終）

醫史學者

醫學士・文學博士

渡應元年五月十一日安

藝園長樂寺生礼、昭和十五年十一月六日歿（一八六五—一九四〇）。字十長、

幼名充人。號丹霞、丹霞樓、夜珠庵主、子長學人、平氣子、惺惺齋、

樂庵居士、福海、筆花齋、蘭樓主人、迂齋等。廣島醫學校卒。上京して

中外醫事新報社入社。明治二十一年ドイツ留學、歸國後日本橋の中洲

養生院内科醫長。大正元年「日本醫學史」に帝國醫學士院恩賜賞を受賞。

京都及び九州帝國大學と醫學史を講じた他、渡應義塾に入學、東洋大學

の日本女子大學をも教授。また淨土真宗の碩學（派を爲し）、十二年中山

文化研究所所長。昭和二年同志と日本醫史學會創設、十二年理事長。

ドイツ文學者富士川英郎はその四男。

著書に『帝國醫學年表』（明治二十五年四月—二十九年刊、吐鳳堂發賣）、

『日本醫學史』（明治二十七年十月—二十九年裝華房）、『金剛心』（大

正五年九月—二十二年洛陽堂）、『道京』（大正八年六月五日全心書房）、

『異境兒童』（大正十二年十一月十五日太陽堂書店）、『信仰と迷信』

（昭和二年—二月十五日機部田陽堂）『日本民俗叢書』（）、『長壽法』（昭

和二年十一月十五日帝國生命保險株式會社健康増進部「健康増進叢書」）、『安

心生活』（昭和五年二月五日兵庫・真宗初發協會）、『科學と宗教』

（昭和六年二月十日春秋社「春秋文庫」）、『眞實の宗教』（昭和六年

年十一月十日近代社）、『實語教』（内題「新釋實語教」昭和十年四

月十一日中山文化研究所）、『宗教生活』（第一、第二、昭和十一年

四月十七日中山文化研究所）、『新選妙好人傳』（『俳諧寺一茶』昭

和十一年九月一日）、『松尾芭蕉』十月—十一月）、『明惠上人』十一月

十一月）、『中江藤樹』十一月—十二月）、『信徳會・厚徳書院』、『大

和清九郎』四月(二十一日)、『香樹院徳龍節』十月(二十日)、『讃岐庄松』
 十二年八月(二十日)、『田原のお園』十六年一月(二十日)正信協會・厚徳
 書院)、『家庭文化』(昭和十三年五月(二十日)厚徳書院)、『母性』
 京教』(昭和十四年四月十日中山文化研究所)、『富士川游著作選』
 (第四卷『瑞華雜誌』昭和十七年二月十五日、第一卷『眞實の道』一
 十五台中山文化研究所)、『醫史叢談』(昭和十七年十一月(二十日)書
 物展望社)、『富士川游著作集』全十卷(昭和五十四年一五十七年刊)
 等。『富士川游先生』(富士川英郎・二枝博首執筆、昭和二十九年十
 一月六日神奈川・「富士川先生」刊行會)がある。

